

港湾分野における技術基準類の国際展開方策に関する研究動向



港湾研究部 港湾施設研究室 (室長 (博士 (工学))) 宮田 正史
 管理調整部 港湾技術政策分析官 中野 敏彦

(キーワード) ベトナム、設計基準、施工・検収基準、港湾構造物

3.

賢く使う

1. はじめに

本研究は、アジア諸国等の発展途上国における技術基準類に関する調査分析等を通じ、日本の港湾分野における技術基準類をベースとして、国内の技術基準類を相手国のニーズに応じてカスタムメイドできる手法に関して検討を行うものである。

2. 技術基準の国際展開

今後も旺盛なインフラ需要が見込まれるアジア諸国等、海外で日本企業がビジネス展開を有利に進められるようにするには、官民一体となったトップセールスに加え、投資対象国におけるスタンダード獲得のための取組等を推進する必要がある。しかし、日本の港湾構造物の設計に用いる技術基準は、自然条件、技術水準等の違いから、必ずしもそのまま対象国の実情に適合するものではない。

そこで、日本の港湾設計基準をベースとして対象国のニーズに応じたカスタムメイドを行う手法に関して、これまで調査・検討の中で協力関係を構築してきたベトナムをパートナーとして、国土交通省港湾局と連携し、港湾空港技術研究所等の協力も得ながら、検討作業を進めている。

3. 日越共同研究のこれまでの成果と今後の予定

ベトナム側は、交通運輸省科学技術局と交通科学技術研究所 (ITST) がカウンターパートであり、日越双方の学識経験者などの専門家を含めたワークショップを開催して定期的に意見交換を行っている¹⁾。今年度は、設計基準のうちの地盤基礎編、係留施設設計編、防波堤設計編とともに、施工・検収基準について議論し、基準素案を共同で作成した。

施工・検収基準については、当初計画では検討対象外であった。しかしながら、ベトナム側からの基準整備への要望が強かったこと、および施工・検収時のルールを明確にして構造物の品質を確保することにより、ベトナムにおける良質で安定的なインフラ構築に寄与すると判断し、追加した。施工・検収基準については、我が国の「港湾工事共通仕様書」(英訳版)²⁾をベースとしつつ、ベトナムにおける各種の既存規定や施工精度、検収基準の位置づけなどを議論し、ベトナムで活用するためにどのような修正を行うべきかについて議論した。

なお、これと平行して、過年度に策定した基準素案も含めて再編集し、港湾設計・施工の国家基準 (TCVN) の発行に向けて、ベトナム国内における審査に移行するための準備を行った。今後、ベトナムとの共同研究で得られた知見・経験を活用し、カスタムメイドを行う手法について研究の取りまとめを予定している。

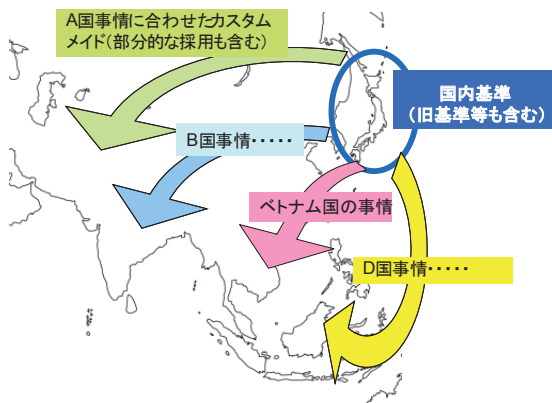


図 対象国の事情に応じたカスタムメイド

☞ 詳細情報はこちら

1) 国総研資料 No.769, 800

<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn0769.htm>

<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn0800.htm>

2) 国土交通省港湾局 (監修) : Standard Specifications for Port & Harbor Works, SCOPE (発行), 2013.